

PHASE プログラム報告書

・はじめに

本報告書では私が今回の研修を通じてケニアで体験したこと、そしてそれらについての感想や考えたことについて書いていく。

・ナイロビにて

ケニアの首都ナイロビには初日と4日目の夜から出発まで滞在し、プログラムとしては主に現地の大学への表敬訪問や成果報告などを行なった。現地大学への表敬訪問では表敬訪問実施後の空き時間で大学内を散策し、ケニアでの大学生活についてイメージを持つことができた。

ナイロビは標高の高さ故に気温もそこまで暑くなく、日没後は非常に過ごしやすい気候だった。また、食事についてもケニア料理は味付けのクセが少ないため万人受けする料理であると感じた。また諸外国の料理を提供するレストランなどもあったため、長期滞在であっても困ることはないと思う。

・クワレにて

クワレはケニア南東部に位置している地方の中心になっている街だが、ナイロビや空港のある別の街とは違い非常に発展していない街だ。クワレは日中も夜間も非常に暑かった上に日光も強かったため日焼けした。

ここでは主にさらに地方にある診療所や学校を訪問し、ケニアの地方での課題や改善のプロセス、診療所の仕組みなど遠隔医療の医療体制をメインに学んだ。私は医学関連には全く知識がなかったので一般常識の範囲内で話を理解しようと努力した。その中で学んだこととしてはケニアの遠隔地域における遠隔医療の現状は改善しつつあるが、いまだに多くの課題が残されているということだ。それと同時に医療面以外にも多種多様な課題が山積みになっているため、同時にそれらの課題にアプローチしていく必要性を感じた。

・最後に

今回の研修では主にケニアでの遠隔医療の現状などを学んだが、同時に現地には様々な問題が残っているため、特定の学部だけでなく他学部の学生も積極的にこのプログラムに参加し、学ぶことで得られるものがあるのではないかと感じた。

